

令和4年度第1回羽曳野市介護保険等推進協議会  
事前配布資料へのご意見等(取りまとめ)

委員名	意見・質問等	市の回答等(回答は下線部分について)
畑委員	<p><b>推進協資料1について</b> この2年半は、コロナ禍ということで、介護サービス提供現場でも様々な影響があったかと推測されます。 <u>この資料の年度末ごとのサービス利用状況やサービス提供体制の数値に見られる変化(R3.3⇒R4.3)に、どの程度影響が表れているのか。また、どのような課題が明らかとなったかなど分析、検討されている点についてご説明いただきたいと考えています。</u></p> <hr/> <p><b>高年者いきいき計画について</b> 第8期が始まって1年半となりますが、以前から継続して取り組まれてきている活動が、コロナ禍でどのように変化し、今現在、どのように取り組まれ、どのような課題を抱えているか、今後どのように取り組んでいくのか、ご説明していただきたいと考えています。</p>	<p>介護サービスの推移をみると、令和3年4月から令和4年3月までは、前年同月を上回って推移しています。このことから、介護サービス全体への新型コロナウイルス感染症による大きな影響はないと分析しています。</p> <p>具体的に令和3年4月から令和4年3月のサービスを個別に見ると、居宅サービスが前年同月比年間平均105.8%と上回っており、逆に地域密着サービスについては、前年同月比年間平均98%、施設サービスについては、前年同月比年間平均99.9%と、わずかに下回る結果となりました。さらに居宅サービスの内訳をみると、「訪問サービス」は令和3年4月から令和4年3月まで前年同月比105%を上回る月が11カ月を占めており、前年同月比年間平均は108.2%となっています。</p> <p>その一方で、「通所サービス」を見ると令和3年6月以降は、前年度同月をわずかに下回る月が9カ月あることから、「通所サービス」を利用していた方のうち、一定数は「訪問サービス」へ移行されたものと分析しています。</p> <p>介護サービスは、高齢者の健康維持などに不可欠であり、今後も必要なサービスを提供していくため、保険者としても、国等の実施する感染症対策の支援などについて、事業所と情報共有しながら介護サービスの提供に努める必要があると考えています。</p>

委員名	意見・質問等	市の回答等(回答は下線部分について)
	<p>・<u>地域包括ケア体制の充実の一つとして取り組まれている「ふれあいネット雅び」の中に位置づけられる校区福祉委員会独自の活動状況(助け合い・支えあいのネットワーク)について</u></p>	<p>校区福祉委員会の活動は、コロナ禍の中、従来取り組んでいたお花見会やサロンなど多くの方に参加して頂くような取り組みが開催できない等多くの影響がありました。その中でも、「ひとりぼっち」を作らない、コロナを原因に「何もしない」ではなく、妥協点を探りながら、出来ることを再開・実施して各校区福祉委員会で工夫を行い、個別訪問等の見守り活動や人数や時間を制限していきいき百歳体操やサロンなどの開催を行っています。</p> <p>人数や時間を制限して活動を実施していますが、感染を避けるため自宅内で過ごす時間が増え活動時間が減ることにより筋力の低下、それに起因する自宅内での転倒・骨折により要介護状態になってしまう事、また現在の活動の担い手である校区福祉委員自身が高齢化しており次世代の担い手の育成が課題となっています。</p> <p>今後も各校区福祉委員会でコロナ禍でも出来る事を工夫しながら取り組みを行っていきます。羽曳野市社会福祉協議会では各小・中学校において福祉教育を実施するなど、将来校区福祉委員会の活動の担い手を育成するための活動をされています。また、校区福祉員会に対してICTを活用した取り組みを進めていけないかを模索されています。</p>
	<p>・<u>健康づくり介護予防推進で取り組まれている高齢者の生きがいづくりの取り組みや高年いきがいサロンの活動状況について</u></p>	<p>高齢者の生きがいづくりとして、パソコン教室や手芸教室等の各種教室を実施しています。コロナ禍の影響で教室の中止等で開催回数等が減ることはありましたが、継続して活動をされています。高年生きがいサロンは令和3年度も、まん延防止等重点措置等の影響で、4月中旬～6月中旬にかけて閉館しておりました。市が実施していたはびきのウェルネス事業を、高年生きがいサロンにおいて市民が中心となって活動を行う自主グループに移行するため、グループの中心となって活動を行うサポーターの養成を行っております。サポーターとして活動は、きらきらシニアプロジェクト事業のボランティアポイントの対象となります。この他、熟年元気教室として食事や栄養の教室、高齢者向けスマホ教室の開催や地域の自主グループの活動の場として高年生きがいサロンは活用されています。</p> <p>各種教室等は人が集まることもあり、実施にあたり感染症の影響を受けやすく、また、ウェルネス事業などの体操はマスクを外しての実施をする事もあり、感染症への対策が課題となっています。</p> <p>今後は会場内の人の配置の工夫や、マスクの着用や手洗い消毒などの基本的な感染対策を周知徹底し、高齢者の方が安心して参加できる環境の整備をしながら生きがいづくりを支援していきます。</p>

委員名	意見・質問等	市の回答等(回答は下線部分について)
	<p>・<u>地域における生きがいつくりや介護予防に対する支援体制の状況及び課題について</u></p>	<p>介護予防につながる市民が主体となり、誰もが参加できる地域に開かれた通いの場としてのいきいき百歳体操ですが、コロナ禍の影響をうけ活動を自粛するグループもありました。令和3年度に「羽曳野市いきいき百歳体操事業補助金交付要綱」を制定し、各団体に継続可能な運営が出来る体制整備の為、モニター等の備品や感染対策の為の衛生材料の購入費について補助金の交付しております。</p> <p>自宅でも介護予防の体操を出来るように動画をYouTubeで配信をしていますが、個人では活動を継続する事が難しいため、感染対策を取りながら集団での活動をどう支援して行くかが課題ではないかと考えております。</p> <p>今年度もいきいき百歳体操をする団体については、補助金の交付を継続して行う等、地域における介護予防活動を継続して実施できるように支援を行っていきます。</p>